

科名 13期ミュージアムへ行こう 4

テーマ名 大原美術館鑑賞会 バスツアー



実施日時 2025年12月9日(火)

I 行程

JR 新大阪駅前駐車場 8:15 集合 8:30 出発

倉敷駅近くのアパホテルで昼食 11:50~12:50

駐車場 → 徒歩で大原美術館 13:00~15:00

美観地区散策 → 駐車場集合 15:20 15:30 出発

JR 新大阪駅前駐車場 19:00 到着 解散



新大阪に集合



昼食「銀ゆば」



美術館前 倉敷川の舟流し

Ⅱ 大原美術館 鑑賞

1. 大原美術館 本館

(※ 館内は完全に撮影禁止のため、絵はパンフレットのものを使っています。)

大原美術館は、倉敷紡績などの企業を経営する実業家大原孫三郎

(1880～1943)の経済的支援を受けた洋画家の児島虎次郎(1881～1929)

が二度の渡欧を重ね、モネ、マティス、ルノアール、セザンヌ、

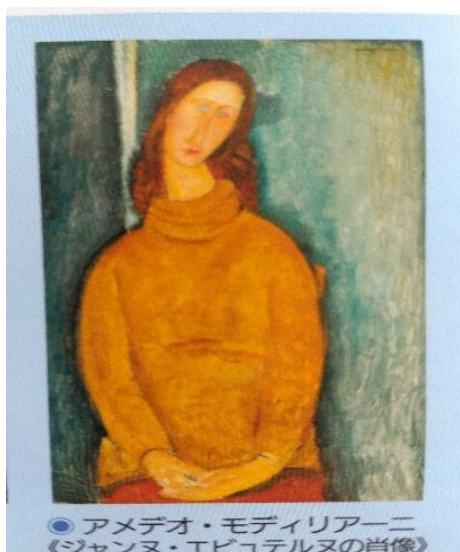
ゴーギャンなど多々の西洋絵画を始め、古代エジプト、西アジアの

美術品などの収集に尽力しました。

それらの収集品を収め 1930 年に孫三郎によって創設されたのが大原美術館です。



大原美術館が誇るエル・グレコの「受胎告知」は 1922 年にパリの画廊で購入されて以降 100 年以上に渡って所蔵されてきました。今年 7 月より本格的な修復作業が始まり、鮮やかな色彩が蘇っています。



2. 工芸・東洋館

大原美術館の分館である工芸・東洋館では、孫三郎の長男總一郎（1909～1968）の「美術館は生きて成長していくもの」という信念の元、西洋の前衛的な作品や明治以降の日本の洋画、さらには民藝運動を主導した陶芸家、濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉、河合寛次郎など、様々な分野に渡って収集に努めました。また、棟方志功の数々の木版画、芹沢銈介の染色などにも出会えます。



中庭から見た工芸館・東洋館

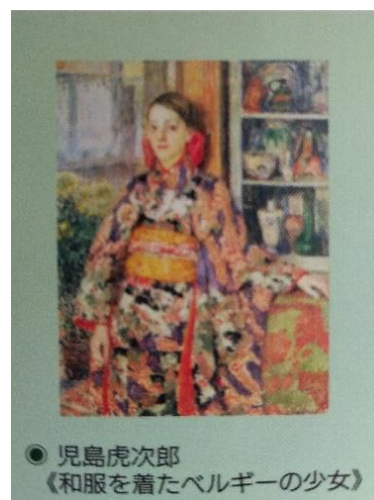


3. 児島虎次郎記念館

本館を出て美観地区を少し歩くと、美術作品の収集に尽力した児島虎次郎の記念館がありあます。自らも画家であった虎次郎の作品や、古代エジプトや西アジアの美術品などが展示されています



旧中国銀行倉敷本町出張所を
リノベーションした記念館の外観



4. 企画展 「1925：ピカソ・フジタ・ヤクシジ — 結びの 100 年前」

今から 100 年前の 1925 年に焦点を当て、その当時パリで活躍していた
ピカソ、藤田嗣治の作品を大原美術館所蔵品の中から紹介し、
同じ時期に大原美術館や現・児島虎次郎記念館（旧中国銀行倉敷本町出張所）
を設計した薬師寺主計のインテリア、家具など展示しています。

編集後記

12 月の初旬、絶好のバスツアー日和に恵まれ、「ミュージアムへ行こう」の
メンバーに、副理事長、他の講座の CA さんなどを加え、和気藹々のバスツアー。
ほぼ予定通りのスケジュールで大原美術館や周辺的美観地区散策を楽しむことが
できました。

何十年かぶりに訪れる人も多かったと思います。今更ながら、およそ 100 年前に
西洋の絵画に魅了された若き画家が夢心地の情熱で作品収集に励んだ当時に思い
を馳せました。

美観地区は時代と共に古いものを上品に残しつつ、若い人も惹き付ける魅力的な
町に進化していました。



創業から 60 年を超える、アイビーで覆われた
喫茶店「エル・グレコ」

2 班 広報担当